

県指定文化財（答申）の概要

種 別	有形文化財（建造物の部）		
名 称	ささのかんのんどう 笹野観音堂 1 棟 つけたり むなふだ 附 棟札 4 枚 せんじゆせんげんせんざほうようきふだ 千手千眼遷座法要木札 1 枚 ふしんかんけいしりょう 普請関係資料 8 冊	員 数	左欄のとおり
所在地	米沢市笹野本町 5679-1		
所有者	宗教法人幸徳院 米沢市笹野本町 5686-5		
特 色	<p>（形 状）組物三手先、二軒繁垂木、入母屋造、軒唐破風、千鳥破風、正面一間通り吹き放し、妻飾り二重虹梁斗栱大瓶束、茅葺</p> <p>（製作年代）江戸時代後期（天保 14 年（1843 年））</p> <p>（寸 法）正面桁行三間、側面梁間四間</p> <p>（特 色）</p> <p>せんじゆせんげんかんのんぼきつ 千手千眼観音菩薩を本尊とする仏堂で、米沢市南方の郊外、標高 600m ほどの笹野山東麓に所在する。檜原街道（会津街道）から参道を西に進むと、山門を経て境内に至り、当堂は参道のほぼ真正面に東面して建っている。</p> <p>当堂は、比較的規模が大きく、正面側に彫り物が多く配される。彫り物は、かごぼり 籠彫り※1などを駆使し、細部にわたって相当に凝った造りである。</p> <p>また、内部も須弥壇<small>しゆみだん</small>周りを中心に塗りや彩色で華やかに荘厳※2<small>さいしき</small>しており、<small>しょうごん</small> 素木※3<small>そぼく</small>の簡朴な仏堂のようであり、装飾性にも配慮されている。</p> <p>※1 社寺建築の木鼻（きばな）などにみられる装飾用木彫りで、外側だけでなく、内部にも透かし彫りをして立体的に仕上げるもの。</p> <p>※2 仏教用語で仏像や仏堂を美しくおごそかに飾ること。</p> <p>※3 着色などしていない木。</p>		
指定の意義	<p>当堂は、彫り物が多く装飾性に富むが、全体として華美に流れず、破綻したところがない社寺建築として手堅くまとめられている。建築年代が、棟札によって天保 14（1843）年であることが明らかであることも、基準作例となる。</p> <p>また、茅葺の大屋根を現在まで維持していることも高く評価出来る。</p> <p>さらに、今に伝わる古文書や棟札等によって、普請の経緯、米沢藩との関わり、建築に携わった職人、再建にかける地域の人々の熱意なども明らかとなっており、建築史に留まらず、歴史的にも非常に価値が高い建築である。</p>		

(写真)

正面



向拝 彫り物

